

＜今日の説教のポイント マタイによる福音書2章1～12節＞

①救い主を探し求める人たちの視点から描くマタイ福音書。

クリスマスの記事はマタイとルカの二つの福音書に記されています。二つを読んで感じる違いは、マタイは救い主を探し求める人間の視点から描き、ルカは生まれて来る救い主（神）の視点から描いていることから来るような気がします。マタイ福音書の東方から来た学者たちの言動に親近感を覚えるのはそのせいでしょう。そして、その彼らを通して私たちは私たちを守り導いて下さる神様に出会うのです。

②なぜ彼らなのか？ そのことから覚えさせられる恵みを考えよ！

救い主の誕生に最初に気づかされた人がなぜイスラエル人ではなく、東方の占星術の学者たちだったのでしょうか？ まずそのことを不思議に思うのですが、同時に、このようなことを神様は起こされるのだということを知らされて嬉しくなるのです。なぜなら、神様が同じことを私たちにも起こして下さるかもしれないと思えて来るからです。

③とんまな彼ら。でも、神様は守り抜いて下さる！

神様が与えて下さった星に導かれてエルサレムまで来た彼らは、何の疑いもなく、王様の所に救い主の居場所を聞きに行きました。なぜ急に尋ね求め先を星から王様に乗り換えたのでしょうか？ この後また星が現れたことが記されていますので(10節)、一時、星を見失ったのでしょうか？ 王様の所に行けば、確かに知識と知恵は得られますし、実際、ベツレヘムという場所が示されたのですが、同時に危険に身を晒すことにもなったのです。あわてるな、急ぎ過ぎるな、星を待て、神様の知恵より人間の知恵に聞くことを先行させてはならない。色んなことを考えさせてくれるこの出来事です。そして一番大事なことは、そんなとんまな彼らを最後まで神様は守り導き続けて下さったことです(12節)。

④幼子を見て満足できた学者たち。なぜ？ 本当の信仰、ここにあり！

生まれたての普通の赤ちゃんを見てなぜ学者たちが満足できたのでしょうか？ しかし、逆に「なんだこれは」と言ったとしたら、人間が勝手に神様を思い描いていたということになるのではないのでしょうか？ 彼らは神様の不思議な仕方で示され、導かれ、守られてここまで来られ、幼子を神様の救い主として受け入れたのです。自分の思い通りにな